

(別紙の2)

自己評価及び外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)		外部評価(評価機関記入)	
			実践状況		実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	介護員室の見える所の壁に掲げ、課題が出れば互いに話し合い共有できている。実践につなげている。	事業所の理念「利用者の気持ちに引き合い、その人らしく～」を掲げています。昨年度末に管理者と職員で実践の評価を行い、今年度は活動計画に「利用者に対する声掛けに注意する」項目を掲げています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	元気サロンや行事等で地域の方と交流はあるが、限られた方で、日常的にと言われると難しい。	法人理念「住民と共に、地域福祉の充実！」の実践例として、地域福祉交流事業「歌会サロン」や「のぞみDE元気サロン」を毎月企画しています。利用者や職員も、地域の一員として参加し、住民と交流する機会を提供しています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	毎月認知症カフェ(元気サロン)を開催しているが、地域の方々の高齢化や若い人たちの関心が薄く、理解や支援は地域の力を上手く活かせていない。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、その意見をサービス向上に活かしている。	定期的に開催し、地区の役員や地域の方等、しっかり参加して下さり活かしている。	会議はコロナ禍でも可能な限り定期開催され、事業計画や運営に対し、内部の評価機能的役割とアドバイザーでありサポーターとなっています。会議には一般職員も交代で出席し、事業運営の理解につなげています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	市町村とはしっかり協力し、実情も理解し合っていて、取り組んでいる。	市町村とは運営推進会議の委員として意見交換を行っています。所長と管理者が広域の行政を訪問し、毎月発行される「のぞみの里ニュース」を持参しながら、現状報告や相談を行い関係性の継続を図っています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	委員会を中心に取り組み、身体拘束せずケアを行っている。	従来は身体拘束廃止委員会と、今年度の介護保険法改正で義務付けられた高齢者虐待防止委員会を定期的に開催し、研修を行って運営推進会議にて報告しています。今年度の事業計画の中に掲げ、取り組んでいます。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	学ぶ機会が不十分なため、資料を回覧して注意しているが、言葉の虐待を見逃している事もある。			

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	年1回の研修に職員が出席しているが、全体で共有等、話し合うことができず、活用できていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	管理者が中心に行っている。短時間での説明で理解するのは難しいと思われるが、説明した重要事項説明書を渡し、理解してもらえるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族会が関わってくれているが、それが反映されているのか職員にはわかりづらい。	利用者の誕生会を個別に企画し、利用者・家族・担当職員でゆっくり過ごす時間をとり、会話の中で意見や要望を伺っています。意見箱の設置や、家族会総会の中で意見や要望・提案をいただき、反映させています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員からの意見を聞く機会はあるが、反映できることも出来ないこともある。 会議や随時意見や疑問に答えてくれる。	地域福祉交流事業の取り組み等、職員より様々な企画アイデアが提案され、実施しています。また、人事考課制度を導入しており、職員面談や目標管理シートへの記入内容により、意見や要望を把握し反映しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	働きやすさはあるが、就業環境の整備は進んでいるが、職員の教育が少し不足していると感じることもある。人事考課を行い面接し、労働契約の更新の際に、目標管理シートなどを活用している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人外の研修にはしっかり参加でき、機会も多くある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	同業者とのネットワークなどはなく、郡内の研修会を通して地域の事業者と顔を合わせる程度のみ。食事部会で他施設を訪問し、交流と学びの場を設けてくれた。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	初期については管理者が主に行っているが、その後については担当がモニタリング等を行っている。本人の言動を良く観察するよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	家族への聞き取りなど、初期についてはほとんど管理者が行っている。家人の面会時等で近況を伝え、家族からの発信も聴くように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	申し込みのある利用者のため、他のサービスについての対応はしていない。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	本人のできることはお願いしている。やってもらうことも多く、頼ることは日常的にある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	電話等で日々の暮らしを伝えるほか、家族で協力できること(受診・面会・誕生会)は、行っている。3か月に1度、お便りで様子を知らせている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	なかなか馴染みの人や場所に行くことは難しい。面会はいつでもOKしている。	事業所では入所前の馴染みの関係を大切にしながら、事業所が地域福祉活動を企画運営する中で、利用者が活動に参加し、住民やボランティア・参加者と新たな馴染みの関係を創っていく取り組みを支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	気の合う利用者同士は一緒に仕事をしたり話をしている。孤立しない配慮を職員がしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	終了後のフォローはしていないが、先方からの相談は受けている。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	自分で訴えられる方は、意向を把握できている。困難な場合は、家族と相談しながら検討している。	今年度の介護目標「利用者の動きやつぶやきに耳を傾け…」の実践として、利用者の言語的コミュニケーションと、一人ひとりの固有な非言語的コミュニケーションから探って予測し、意向の把握に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入所時に聞き取った情報を確認し、これまでの暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	それぞれの利用者に声を掛けながら一日を過ごしてもらっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	担当者を中心にモニタリングをして、必要に応じて職員会等で話し合いをしている。	利用者の生活課題を医療・介護・機能訓練・栄養と連携し、現状の生活支援が適切であるか、また今後どのように生活したいと思っているのか、本人・家族からの意見・要望を聞き、介護計画に組み入れています。	利用者の心身の変化を理解する手段として、身近な担当職員が利用者の現状把握を行って、変化を予測し、持っている力を発揮する為に定期的なアセスメントを期待いたします。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	タブレットや連絡帳を活用し、記録・申し送りしているが、詳細な記録ができていないこともある。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	現状必要なサービスを、臨機応変に対応できている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域資源の理解把握が不十分である。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	かかりつけ医中心で行い、他町村の病院については家族にお願いしている。	受診は、かかりつけ医を中心に行っています。利用者の主治医と事業所の協力医、また地域の訪問看護ステーションに委託して、週1回金曜日に看護師が来所し、情報共有と連携を図って、利用者の健康管理を行っています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	週1回の訪問看護ステーションからの看護師来所時に状態を伝えたり、場合によっては電話で相談依頼をしたりしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	管理者が入院情報提供書を作成している。相談等できる関係づくりはできている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	終末期のあり方については家族に意向ももっている。再確認も定期的に行っている。	前回の外部評価実施後の目標達成計画に基づき、看取りの支援体制を整え、事業所内で3名の方の看取りを実施しました。関係職員から「研修や勉強会に参加し実際の看取りの場に携わり、改めて日々の生活支援の大切さを感じました」と、話が聞かれました。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	定期的な訓練は行っていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	避難訓練は事業所全体で行っている。地域とは協力体制については、はっきりわからない。有事にしっかりと動けるか不安はある。	今年度の事業計画(消防防災項目)に基づき、毎月1日に防火点検を実施しています。防火教育訓練計画を策定し、実際の避難を想定した訓練を実施しています。現在、自然災害発生時に於いて職員一人ひとりが、いざという時に行動できるよう研修訓練を計画しています。	

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	一人ひとりに尊重した言葉かけを心がけているが、万全と言えない時もある。	馴れ馴れしさと親しみを混同せず、常自分がこの立場だったらどう感じるか【自分事】として考え、適切な言葉をつかって行動するように、職員会や個別面談時に管理者から話をして振り返りを行っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	声掛けを工夫しながら、思いを聞いている。自己決定できる方には働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	集団で何かをやる機会が多いが、個々の動き、希望のある方には対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	起床時に身だしなみを整えるほか、定期的に訪問カットをしている。お化粧も声掛けしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	準備や片付け(下膳)のことはやってもらっている。一緒に食事作りをしたりしている。	当日の食事は、当番の利用者が立て看板にメニューを書いてお知らせします。食事の準備や片づけを職員と一緒にしています。介護職員・事務職員と一緒に食卓を囲み、話に花が咲きゆつくりとした食事の時間でした。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	一人ひとりの状態等を把握して、量・水分・形態を合わせて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	感染症予防も考慮して、毎食後の口腔ケアは基本している。できない方は夕食後だけでも行える様、促している。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	誘導している利用者についてはチェック表を見ながら声掛けしている。自立に向けた支援に至っていない。	個別の排泄チェック表を確認しながら、声掛けや見守りを行い、可能な限りトイレでの排泄に取り組んでいます。利用者への声掛けもプライバシーに配慮し工夫しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	薬使用以外では個々に応じた予防はできていない。良好な排便につながる食事・おやつ提供に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	週2回入浴できる様、声掛けしている。時間帯については午後が基本だが、状況により午前に入ってもらうこともある。誘いに応じない時は、順番を変えたり、日を変えたりしている。	今年度の介護目標の実践として、入浴にお誘いする声掛けの工夫やタイミングを見計らい、利用者の意欲を尊重しています。身体状況に合わせ、リフトがついた浴槽を活用し、安全でゆったりした入浴に取り組んでいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	状況をみながら眠りを妨げない声掛け等をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬情報を確認し、服薬支援や状態変化の確認はできている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	声掛けや役割分担して仕事をしてもらい、張り合いや喜びを持った生活につなげている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	天気の良い時は近隣を散歩したり、外気浴をしたりするが、馴染みの場所には行かれていない。春や秋にはドライブをして、季節を感じられる支援をしている。	可能な限り、短時間でも近所へ散歩に出かけたり、歩くことが難しい利用者も事業所入口のベンチに腰掛けて街並みを眺めたりして、通りがかりのご近所の方と話をしています。本人の外出希望が実現できるように家族と相談しながら、計画的に実施しています。	

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お金についてはグループホームで預かって いる。行事の際に、お金を使う機会を作っ ている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話のやりとりができる方には取り次ぎ、椅子の用意等、環境作りも支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	壁飾りについては、季節ごとに飾りつけを工夫している。夏場の暑さが厳しくなって、しのにくくなってきている。	夏の季節に合わせた利用者手作りの壁飾りを、涼やかに配置してリビングに彩りを添えています。中央にリビングがあり、周囲に居室とキッチン、浴室が配置されて、部屋にいてもリビングの様子が感じられます。猛暑の中、風通しを工夫し室温管理をしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	気の合った利用者同士のテーブルを配置している。椅子だけでなく量のスペースを作り、一人で過ごす環境作りに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室には、各々馴染みの家具を持って来て配置し、ゆったりできる空間づくりが出来ている。	利用者持参の家具を本人・家族と相談して配置しています。木曾の夏は扇風機で快適に過ごせていましたが、年々夏場の気温が急上昇し、リビングにあるエアコンの冷気を扇風機で循環させ、暑さ対策を行っています。	リビングの風の通りみちになっている居室のドアを開けるため、暖簾を掛けてプライバシーに配慮しています。その他の居室のプライバシーと快適性についても検討を期待いたします。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	個々のADL(日常生活動作)に沿えるよう、要所要所工夫して、安全で自立した生活ができるよう配慮している。		